

# まぐろから見える世界

(社)責任あるまぐろ漁業推進機構専務 原田雄一郎



17

ていたが、加盟国間の意見の調整がつかず、不調に終わった。今次会合で進展がなければ、WCPFCの資源管理機関としての能力に赤ランプがともる。

## ◆歯止めかからぬ

巻網

一方、今年8月に開催された科学委員会で、この3年間の規制の効果が退が著しいメバチ資源の回復を図るため、2003%の削減率を達成して

# 巻網FADS規制なるか？

## 中西部太平洋マグロ資源管理の焦点

### ◆問われる

WCPFCの能力

機能不全との批判を受けた。延縄は、漁獲量を30%削減。巻網は、集魚装置(FADS)を用いた操業を3カ月間禁止した。

9年から11年の3年間、厳しい漁獲規制を実施し、巻網については、驚くべき結果だ。会議に出席した三宅真氏(国際水産資源研究所)によれば、FADS操業の禁漁期設定も、その経済的發展を支える重要な漁場だ。WCPFCのマグロ資源管理が機能不全に陥れば、影響するところは大きい。

12月の年次会合に向け

(毎月1回掲載)

て、FADS禁漁期間の延長や総操業回数の制限案が検討されているが、前述の結果をみれば、い

いでもないか。WCPFCへの信頼を回復するためにも、今なすべきは規制措置を磨くよりも、問題の根源を絶つ具体策の実施ではないか？ 例

えば、昨年、各地域マグロ資源管理機関の合同会議で採択された先進国の大型巻網漁船隻数拡大の凍結を単なる念仏に終わ

らせず、早急に確実なものとし、その上で、過剰な隻数を減らす道筋が見える。これは、勧告に同意した先進国の責任ある行動により実現するはずだ。なお、付言すれば、漁船隻数の拡大を止めずに行う漁獲規制は、IUU(違法、無規制、無報告)漁業を生むことも銘記すべきだ。過去の歴史が証明している。

科学委員会の勧告を尊重した決定だ。数年前、各国が自国の漁獲枠の確保に固執し、譲らず、科学委員会の勧告を超過する総漁獲枠を決定。結局、絶滅危惧種の保護を目的とするワシントン条約の介入を許し、全面禁漁となりかねない事態となったが、今回の決定はICCATが資源管理機関として、機能を回復したことの証しともいえ、朗報管理措置の改正を予定しがねばならない状況だ。FADS操業を大幅に減

らしたにもかかわらず、史上最高であった」と指摘している。報告書は、FADS規制が、かかる結果になった背景は、巻網の漁獲努力が引き続き拡大し、04年時点の水準から11年までに31%も増加している」と記述している。巻網の漁獲努力拡大に歯止めがかかっていない事実が規制の効果なしという現実となって現れている。

◆大型巻網隻数

拡大凍結を◆

世界のマグロ漁獲量の50%以上、メバチに関しては世界の30%を生産する中西部太平洋は、日本の刺身マグロ市場に安定供給をもたらす源となっている重要漁場だが、南太平洋島諸国にとって重要な漁場だ。WCPFCのマグロ資源管理が機能不全に陥れば、影響するところは大きい。

12月の年次会合に向け

(毎月1回掲載)

大西洋マグロ類保存国際委員会(ICCAT)は、明年の東大西洋・地中海のクロマグロ総漁獲枠を500ト増加し1万3400トと決め、11月19日終了した。◆機能を回復した

### ICCAT◆



科学委員会の勧告を尊重した決定だ。数年前、各国が自国の漁獲枠の確保に固執し、譲らず、科学委員会の勧告を超過する総漁獲枠を決定。結局、絶滅危惧種の保護を目的とするワシントン条約の介入を許し、全面禁漁となりかねない事態となったが、今回の決定はICCATが資源管理機関として、機能を回復したことの証しともいえ、朗報管理措置の改正を予定しがねばならない状況だ。FADS操業を大幅に減